

2000年3月31日

ビール酒造組合

会長 瀬戸雄三様

東京消費者団体連絡センター（加盟 42 団体）

事務局長 佐藤正徳

<事務局>

中野区中央 5-41-8



日本アルコール問題連絡協議会（加盟 3 団体）

会長 上野 浩一

<事務局>

中央区日本橋浜町 3-19-3 ソグノ 21 ビル

（アルコール問題全国市民協会内）

TEL 03-3249-2551



## ボトル型新容器の口飲みシーン自粛についての通知

スクリューキャップ付のアルミ製ボトル型新容器入りビールを、キリンビール株式会社・サッポロビール株式会社が発売することを新聞報道で知り、両社に問い合わせました。キリンビールからは早々に「社会的な配慮として、この容器から直接口飲みするシーンは宣伝に使わない」という明快な回答をいただきました。サッポロビールはホームページに口飲みシーン（リアルビデオプレイヤー）があったため文書で抗議し、3月8日付の文書で口飲みシーンは削除したとのご返答をいただきました。また今後の方針を口頭で確認したところ、ボトル型ビールでは口飲みシーンを宣伝に用いないことを確認できました。

今後、他社でも同様の商品を発売する可能性がありますので、この自主規制を業界共通のものとして周知徹底していただきたく、貴組合にご通知します。

### ●社会的配慮が必要な理由

この新容器というならばビールの水筒のようなもので、若者たちの間に浸透している清涼飲料の小型ペットボトルのように、どこにでも携帯して気軽にラッパ飲み（口飲み）することができます。また、缶ビールは歩きながら飲むとこぼれてしまいますが、ボトル型容器から口飲みすればこぼれないため、新聞報道にあったように「歩きながら気軽にビールを飲む」という飲酒スタイルも可能にしてしまいます。つまりこの容器は、いつでもどこでも飲めるという危険な飲酒スタイルを若者たちに提案してしまう恐れがあるのです。

すでに、小型ペットボトル入りリキュール類やワインを数社が発売しています。これにボトル型ビールが加わり、テレビやポスター等でラッパ飲みシーンが堂々と映されれば、酒類をラッパ飲みすることへの抵抗感が消え、この風潮は一気に広まってしまうでしょう。（なお、小型ペットボトルの酒類については、メーカーとの話し合いの結果、未成年者への配慮からテレビでの宣伝は自粛する旨、回答をいただいています）

アルコール飲料は致酔性・依存性という特性をもっています。良識ある酒類メーカーとして、行き届いた配慮をお願いいたします。

以上

#### 《東京消費者団体連絡センター代表委員団体》

東京都地域婦人団体連盟、 東京都地域消費者団体連絡会、 主婦連合会、  
東京都生活学校連絡協議会、 新日本婦人の会 東京都本部、  
東京都生活協同組合連合会、 文京区消費者団体連絡会

#### 《日本アルコール問題連絡協議会参加団体》

アルコール問題全国市民協会 (ASK)、 アディクション問題を考える会 (AKK)、  
日本キリスト教婦人矯風会、 日本アルコール・薬物医学会、  
日本アルコール関連問題ソーシャルワーカー協会、 飲酒運転に反対する市民の会  
イッキ飲み防止連絡協議会、 全日本断酒連盟、 救世軍日本本営、  
国際グッドテンブラーズ、 日本禁酒禁煙協会、  
日本禁酒同盟、 QBE 保険会社